

県下で最も古い現存する保育園

若竹の園保育園舎 事務室棟、幼児保育南棟



指定区分	国登録有形文化財(建造物)
読みかた	わかたけのそのほいくえんしゃ じむしつとう ようじほいくみなみとう
所在地	倉敷市中央
指定年月日	平成21年4月28日
解説	若竹の園は、大原孫三郎からの敷地寄付や倉敷紡績からの施設無償貸与を受けて、大正14年に開園した。園舎の設計は近代住宅建築の先駆者、西村伊作(にしむらいさく)である。若竹の園の園舎は、西村の教育施設の理想像「一棟を小さくし、バンガローやコテージ様式をとり入れたものがよい。簡素なものは美しく楽しい、少し華奢な方が優美だ」という思想を反映し、バンガロー形式を手本として設計されている。その後増改築がなされているが、西村が設計した当時の姿を留めている部分が登録の対象となっている。
アクセス方法	
公開状況	保育園施設のため非公開
設備	
備考	

きつずページ



していくぶん (指定区分)	国登録有形文化財(建造物)
ぶんかざいめい (文化財名)	若竹の園保育園舎 事務室棟、幼児保育南棟
よみかた	わかたけのそのほいくえんしゃ じむしつと う ようじほいくみなみとう
しょざいち (所在地)	倉敷市中央
していつひ (指定した日)	平成21年4月28日
せつめい	大正時代(たいしょうじだい)につくられた、 県内(けんない)でもっとも古くからある保 育園(ほいくえん)です。キャンプ場(じょう) などによくあるバンガローという建物(たて もの)のようなつくり方を取り入れているの が特徴(とくちょう)です。